

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102347		
法人名	有限会社シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家		
所在地	長崎県西海市西彼町小迎郷1074番地3		
自己評価作成日	平成22年8月23日	評価結果市町村受理日	平成23年1月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海と山とミカン畑に囲まれた1000坪の広々とした土地に有りながら国道やスーパーにも歩いて行けるので利便性がある。 学童が併設され1年中子供達の元気な声がある。 キリスト教理念で経営されており納骨堂が完備されている。 牧師が居るので希望すればチャペルでの葬儀も可能である。 医師、看護師、介護員が連携しターミナルケアに取り組んでいる。 経営者、管理者は職員が働き易いよう環境作りや福利厚生に気を配っている。 血液サラサラ食である野菜、海藻、豆類、芋類を中心に朝、昼、晩共に1汁3菜に果物を付けた献立を工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念である「夕暮れ時にも輝く人生」の文言は職員全員が理解し把握している。自分が自分らしくこころを感じる存在意識を感じられる生活を送るための介護に、職員は日々支援している。排泄の自立では利用者個々の動作、表情、しぐさで確認し昼間はトイレ誘導を支援している。スタッフ会議や主任会議を月1回実施し介護における意見交換、提案、改善に向けて取り組んでいる。看取りにおいては職員の意識が高く、入居時から家族、職員全員で相談しながら満足できる看取りの実践を支援している。家族の来訪も多く家庭的な雰囲気の事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の店の利用又、地域を散歩する事等をプランにあげミーティング等で共有している。	「夕暮れ時も輝く人生・安心・ゆっくり・自分らしく」の理念である、ゆっくり、自分らしくを尊重した介護を全員で共有し利用者本位で実践している。朝礼時などで唱和して共有している。散歩や買い物は地域の中をゆっくりと触れ合いながら支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の店の利用又や、散歩に出掛けたりする事で地域の方との交流を図っている。	事業所主催の夏祭りには小学校の学童保育の子供達や近隣の住民も参加している。また、保育園から運動会への招待を受けたり、地域の清掃活動に参加する等地域との交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて認知症の方の理解、支援を検討している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議で利用者についてのサービス、報告、評価を話し合っている。	2ヶ月に1度、要件を満たすメンバーで実施している。行事の予定・報告、利用者の状況、避難訓練、外部評価の報告をしている。看取りにおける体験を管理者が発表し、家族も看取りの体験を経験出来るような提案、検討が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染症、事故等の発生に伴い常に連絡を密にして情報を得たり相談を行っている。	日頃から利用者に関する相談事項について連絡を取っている。また、感染症の発生時に注意すべき対応等においては、相談・連絡を受ける等市との連携に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員全体が身体拘束をしない事が当たり前になっている。	身体拘束排除については、言葉や態度などの対応について全職員で話し合っている。玄関の施錠はなく、利用者の安全を考慮したセンサーやベッド柵がある。これは家族の願いと転落防止を考慮したものであるが、職員によっては再検討の意向がある。	身体拘束をしないケアにおいては、職員全員が認識を共有することが大切であるため、事業所内外の勉強会が望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会があれば積極的に出席する様努めている。		

グループホーム希望の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていないので学ぶ機会を設けないといけない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際にはその項目毎に十分な説明を行っているが後日疑問などあればすぐ応え理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート、意見の設置はしているがなかなか記入して貰えていない。意見があれば前に進めるのだが.....	利用者の要望は日常の見守りや声かけ、表情から得るようにしている。家族の訪問時に職員は、日頃の様子を話したり家族の要望を聞くよう努めている。主治医の提案で帰宅願望を抱く利用者に対して、デイケアの利用を行うなどして支援している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフミーティングを開き自由に意見、提案を行い出きる事は反映させている。	月1回管理者のみの主任会議と、管理者参加のスタッフ会議が行われている。それぞれに、管理者、職員は介護における問題点や提案など意見交換を行い、避難訓練時の気付きから、緊急時に対応出来るよう室内履きスリッパから靴に替えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇取得推進や年2回の賞与、期末手当があり職員のやる気や給与水準を維持している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回の災害訓練の内2回は消防署立会の訓練であるが消防署からの気づきアドバイスは文章に残していなかった。今後はその都度記録に残すようにする。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1度のネットワークの参加している。		

グループホーム希望の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期の段階でその方のバックグラウンドを把握する様にシプラン(サービス)への充実を図り、安心、信頼を得る様に努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族を色々な不安材料又、要望を話合っていくうちに信頼関係が築かれていく。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現在のサービス内容を実施中だが他のサービス利用が必要かも.....?との事で家族と話し合い協議中</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様を自分達の家族と同様に考え一つの事に対し協力を得ながら生活している。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>変化を見つけて家族に相談し本人にとって適切なケアに努めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の方に来てもらったり出向いたりして関係をつなげている。</p>	<p>近所の知人や親戚縁者の来訪が多く、電話の取り次ぎや季節の節目には手紙を書くなどしている。家族の協力を得て、利用者は同窓会への出席や美容室、墓参りへ出かけている。馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同市出来る事を教えて出来ない所を補うよう支援している。</p>		

グループホーム希望の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もアルバムを作成しお渡しするなどして経過をフォローしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方から自分の思いを聞き出せる会話、表情でおしはかっている。推測にしか過ぎないこともある。	利用者の生活歴や日々の介護の中から、個々に把握するようにしている。声のかけ方や場所や時間を変えながら意向や希望の把握に努めている。困難な場合は表情やしぐさなどから本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する時点でしっかり聞き取りをし、把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状態を気づきとして記録又、バイタル等のチェックにより把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で検討し変化や家族の希望があれば状況に応じて作り変えているが計画と日々のケア記録が繋がっていない。今後はケアプランと支援内容が合致するよう体制を整える。	介護計画は家族の希望、医師の意見などを取り入れ、入居後1週間以内に原案を家族に提示し、追加要望も入れ作成している。前回の改善項目であり、ケアプランと支援内容のチェックや状況の変化を家族と共有するなど継続に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアプラン表に記録し共有し見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内にある集会所を利用し週1度入居者が揃い体操したり歌を唄ったりして支援している。		

グループホーム希望の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近くの公園を利用したりレストラン等行ったりして楽しんでいる。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医を持っており月1度往診診療を受けている。適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>利用開始時に、本人、家族に対し、月1度往診がある協力医の説明をし移行の同意を得る場合が多い。かかりつけ医は継続しており、通院は家族の協力を得ており、電話で連絡し合いながら職員は受診ノートで、情報を共有し支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>その都度施設内の看護師に相談し指示を仰いでいると共に経営者にも報告している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>かかりつけ医との連携をとり紹介状をとったり担当の看護師との連絡も常に取りあっている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>週末期のあり方は本人、家族と十分な話し合いをして方針を共有しているが地域の関係者とも作っていききたい。</p>	<p>入居時に本人や家族に重度化や看取りに関する方針を説明し、家族の同意を得ている。状況に応じて対応が必要となった場合は、家族を交えて看取りに関する話し合いを行っている。看取り体験職員も多く関係者全員で支援している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の隊員より定期的に研修を受けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年4回(うち2回は消防署立ち会い)の訓練をしているがなかなか身につかないのが現状である。</p>	<p>年4回火災訓練が実施され、うち2回は消防署立ち会いで、夜間想定もある。全職員が消火器を扱える。近隣の方を緊急連絡網に入れ、災害時の応援を依頼している。訓練後は気付きや反省会をしており、避難経路において職員の不安がある。</p>	<p>避難訓練後の気付きや反省会において、職員から避難経路の不安があげられている。そのため事業所として経路の確保のための検討が望まれる。</p>

グループホーム希望の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にしか判らない方言があるので第3者に聞かれても良い様な使いこなしをするよう努めている。	職員の守秘義務は雇用契約時に誓約書を交わしている。利用者の個人情報に関する書類は事務所に保管されており、写真掲載においても同意を得ている。トイレ誘導時や日常での声かけにおいても人格を尊重した対応に心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時間を決めて頂いたり衣類選び等していただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の一日の流れをある程度把握できているのでペースを崩さないよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った身だしなみや御洒落が出来るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは入居者の方に聞いたりして作り、片付も一緒にしている。	献立は各ユニットで異なっている。野菜中心の健康食で職員は利用者の好みを聞き、色どりや、旬の野菜等を取り入れ職員が交代で作っている。個々に合わせた食事形態となっている。利用者の希望で外食にも出かける等食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量と水分摂取量は毎日記録し把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合った口腔ケアを毎食後行っている。		

グループホーム希望の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作ってその方の排泄パターンを把握している。	排泄表による把握と利用者の動作や表情でトイレ誘導を行っている。夜間のみポータブルトイレ使用だが、昼間はトイレでの排泄を支援している。利用者のしぐさから排泄を察知し、職員間のみで解るサインでトイレ誘導に繋げ支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事も繊維の多い食材を使ったり運動、水分補給を心がけている。それでも便秘気味の方には緩下剤を使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間はある程度決めているがタイミングを図り快く入浴出来るように支援している。	各ユニットで入浴日が違っているが、週4回以上の入浴でシャワーは毎日対応している。利用者の希望があればそれ以外でも対応している。同性介助であり、入浴を拒む方は時間をおいたり、声かけをするなど個々に沿った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間手作業したり外気浴したり生活のリズムを作り夜にはぐっすり眠れるように援助している。時には足浴やフットマッサージをしたり話し相手になったりして気持ちよく眠れるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬を処方して貰った際には特に副作用に注意し変化があれば直ちに主治医に報告する。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品(たばこ、酒)の自由はないが楽しみ事や気分転換の支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーへの買い物や外気浴など利用者の希望に応じ外出支援を行っているがドライブなど車輛を使う場合は代表の許可が必要である。今後は何時でも思いいたら臨機応変にドライブができる。	天気の良い日は近隣のスーパーや周辺を散歩している。職員の要望から、利用者が行きたい時に専用のワゴン車を出し、車椅子の方を含めた外出の改善が行われた。春と秋は弁当持参で花見に行ったり、近隣の公園、外食等に出かけている。	

グループホーム希望の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は家族との話し合いで所持して頂かないようにしている。買い物等必要に応じて必要な金額を渡している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>季節の節目等にハガキを書いたりして頂いている。必要なら電話をかける事も出来るしかかって来たら受けられるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>花活けをする事で生活空間を豊かにし季節感を味わって頂けるよう工夫している。</p>	<p>ゆったりとしたリビングは、寛げる畳のスペースやソファがあり、個々に寛いでいる。対面の台所であり食事の匂いは、利用者の五感を刺激して食べる楽しさを促している。室温、換気も調整しており、掃除は毎日1回午前中に行い、表にて管理している</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>色々な場所に誘い本人の居心地の良い場所を確保する工夫をしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅での馴染みの家具を持って来て頂いたり置物、飾り物を置く事で気持ちよく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>入居時に本人や家族と相談し使い慣れた物や家具等が置いてある。壁には家族の写真や本人作成の物があり、明るく広い室内は室温、換気の調整をしている。ポータブルトイレは見えないようにカバーが掛けられ、臭いもないよう工夫している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者に合わせた目線で表示したり昼寝の準備も自由に出来るよう取りやすい所に布団、毛布を置いている。</p>		